

坪毛沢木製えん堤（金木支署管内）

坪毛沢木製えん堤

坪毛沢は地域住民から暴れ沢として恐れられていたため、山腹の崩壊等の防止のため、大正5年から昭和33年の間に、現地のヒバ被害木を資材として活用し、木製えん堤を設置しています（現段階で11基確認できます）。

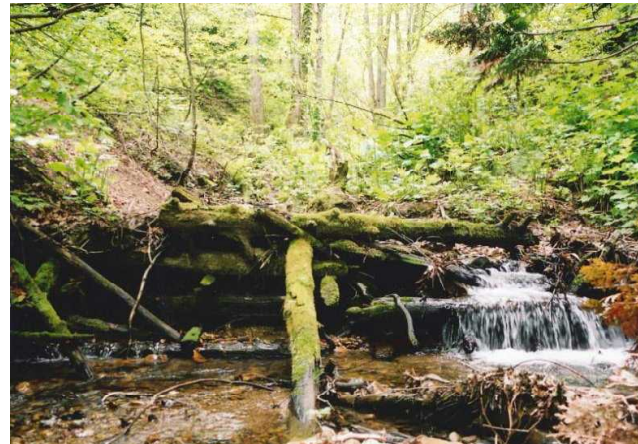
※えん堤（治山ダム）は、河川の浸食による荒廃の危険性のある溪岩及び溪床を固定して、山腹の崩壊及び不安定土砂の移動を抑止し、下流への土砂流出を抑止しています。

大正5年施工の現況

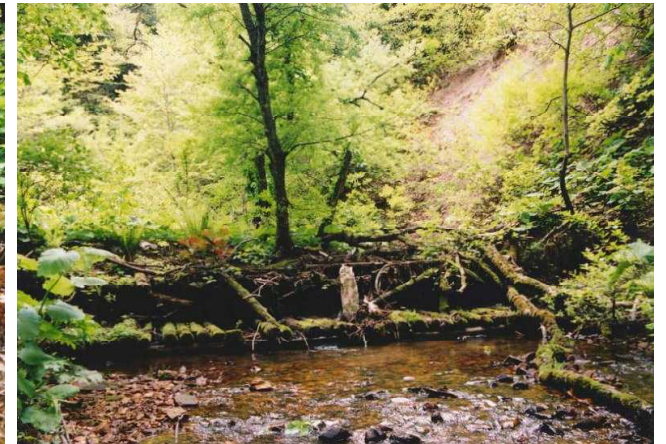
大正5年施工の木製えん堤は、水衝部の部材が摩擦によって細くなり、結束状態がゆるんで一部の部材が抜け落ちたり、袖部の破損が見られるなど損傷が進んでいますが、今でも本来の役割を十分に果たしています。



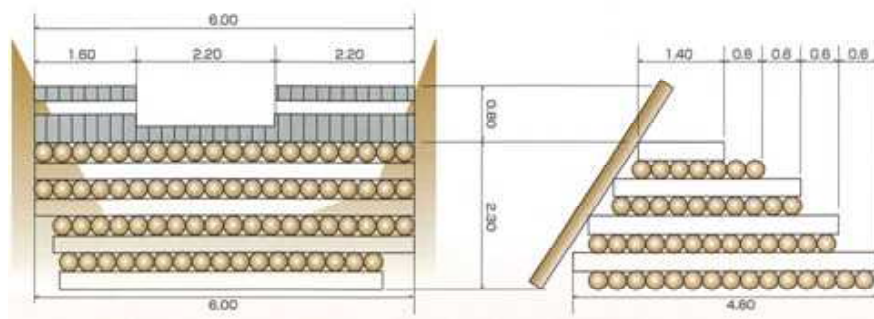
2号えん堤



7号えん堤



10号えん堤



大正5年に施工した構造図

施工当時の記録は残っていませんが、現地においで使用し、おまいます。おまいます。

ヒバの強度に着目した先人の知恵が今なお生かされています。

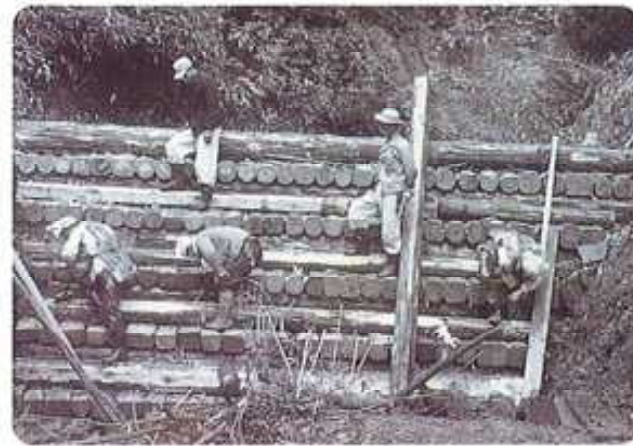
昭和28～33年施工の現況

昭和の木えん堤は、袖部などで欠損がみられるものの、部材の摩耗はあまり進行しておらず、施工当時の状態が維持されています。

・昭和28年施工6号木えん堤の今昔



現在



施工中

後方にコンクリートの治山ダムがありますが、これは昭和33年4月に坪毛沢の最上流部で20万 m^3 の山腹崩壊が発生したことから、予想された流出土砂量15万 m^3 の抑止のために施工したもので、木えん堤を守るように設計されています。

・昭和29年施工4号木えん堤の今昔



現在



完成時

・ 昭和33年施工1号木えん堤の今昔



現在

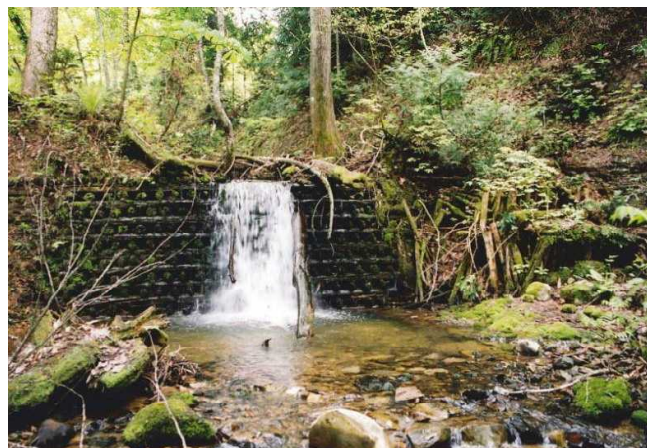


完成時

木えん堤3・8・9号の現況



昭和29年施工8号



昭和29年施工9号



昭和32年施工3号

大正、昭和、平成とある森林を守りつなげ、驚くべき木製えん堤は土砂の流出を抑止し、津軽平野の活躍に役立っている。